結句は良いと思いました。 温かく褒めたのだと思いますと「春の月」のん、ようやったのう、えらかったのう」と、	春の月が、この育てた母を、「ご苦労じがあり、少し暖かさを私は感じますが、春の月は澄むというより少しぼやいり、コノマスマンプロ原しまで、	た白い月で、なんとなく令たい感じがするのまた結句の「春の月」は、秋の月が澄み切っして省略しています。	ていたので、親を助けるのは当然と思ってい子どもの多い両親の苦労は、十分知り感じしたものです。したものです。	なれば、下の子どもの# 当時、子どもが多くてき いは普通で七人、八人の よ殖やせよ」が国策でき	りまでの家族は、子どもが多かった時代で現代の少子化時代とは違い、昭和一桁あたがしく思い出されて筆を執りました。かしく思い出されて筆を執りました。がしく思い出されて筆を執りました。(評)満津於先生の句の「評」をしましたのは(評)満津於先生の句の「評」をしましたのは	与 主	いの 流水 俳壇
たものであり、終戦によ7場建設のため、筆舌に7時であり、終戦によ	め、上半身は薄いシャツであ定地へ運搬した。	司じことをしてから、吻部川の可原へ行き、の兵舎で寝食を共にし、朝夕の行事は兵士と夏(現在の中学校三年生と同年)、全員航空隊私の体験を思い出すと、工業学校三年生のくの人が味わった。	基地へ行き、そこから特攻に出撃したと聞く。	野戦争の音が埋まっていう責任ある対策が望まれます	日本に黄砂が及ぶこともたびたびある。黄砂がなくても、ごく薄い絹の布を透して天空砂がなくても、ごく薄い絹の布を透して天空したは、PM2・5といわれる超微粒子がしました。 最近は、PM2・5といわれる超微粒子が あります。	ったので、「「「「「「」」」であって、「「」」では、「」」では、いては、いては、いていたいで、「」では、いては、いては、いては、いては、いては、いては、いては、いていないで、ない、いいで、いいで、いいで、	いる方が増えるのは、嬉しいことで、これか句されました。新しく俳句を作り勉強されて(評)美智子さんは今月初めて、この一句を投(評)美智子さんは今月初めて、この一句を投
社会教育課 100町3597 2012	締め切り 毎月五日次 題 「当季雑詠」五句	位置戻ればきっと思い出すうございました。うございました。	んは、二月二十四日の高知新れの由来る家に住み 小野市れて山が雪 筒井	せ雨戸叩いて雪間近 日コシあげたる野焼きかな 森御きよせる春落葉 友の自慢や日脚伸ぶ 津浦行きれし風の土手 川市なり子首振る雪舞えば 信	連れて寝る 片岡 包 雪柳 日蔦市たかひ 日本ででで 一時上 岡本 ともの子 岡村 嘉光 の一時上 福寿 の子 一時 大子 一時 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一	戦争の残骸が埋まっていると 「野に戦争の音が埋まっている は絶対にいかん。	「理、愚かさ た期には敵

広報いの **4**月号